

平成 29 年 5 月吉日

茗溪学園 30 周年記念事業にご協力賜りました皆様方へ

学校法人茗溪学園理事長 中川 喜久治  
茗溪学園中学校高等学校校長 田代 淳一  
前理事長 西野 虎之介 前校長 柴田 淳

### 30 周年記念アゴラ棟竣工のご報告とお礼

平成 21 年、学校創立 30 周年に当たり記念事業を行いました。その事業内容は、以下の通りでした。

1. 講堂の新築
2. 国際教育推進のための活動を行う
3. 筑波大学との連携活動を生徒・教職員ともに積極的に行う
4. 記念誌の発行
5. 記念式典および科学シンポジウム（平成 21 年 10 月 7 日に筑波大学・大学会館大ホールにて実施しました）
6. 生命尊重の教育目標をより幅広く達成するため「生命・環境」をテーマとする教育活動の一層の展開を図る

以上の事業推進のために寄付金の募集を行わせていただきました。多くの皆様方より 3,658 万円のご寄付を賜り、記念事業に活用させていただきました。ここに改めまして感謝とお礼を申し上げる次第です。

さて、30 周年記念事業の一番目に掲げました講堂の新築につきましては、「中期的な資金計画を立てて、構想実現を目指す」とし、皆様から頂きました寄付金から 1,600 万円余を「講堂等建設積立金」として銀行口座を開設し、その後計画的に積み増しをしてまいりました。そして、学校の教育活動としては学年を単位とする活動が多いことから、一学年分より少し多い数、約 300 人を収容できる多目的小ホールが最も利活用度の高いものであろう、ということで講堂新築計画が具体化されました。平成 26 年、グローバル化の進んだ時代における本校の在り方として、グローバルスクール構想が出てまいりました。そして、国際バカロレア（IB）・ディプロマ（DP）課程を設置するべく準備が始められました。IB の認定校となるための申請をし、認定を受けるために必要な設備などの整備計画を進める中で、教室数を増やす必要が出てまいりました。元より本校では少人数の授業をいくつもの教科で行っているため、少人数授業のための教室を改修工事などによって増やしてはいたのですが、さらに教室増が必要となり、新棟の建設を決断いたしました。平成 28 年 7 月 IB 校認定を受け、平成 29 年 4 月からの IB 課程生徒受け入れに合わせて新棟建設をするに当たり、30 周年事業における講堂新築も実現させるべく、新棟 2 階部分を小ホールとすることにいたしました。

平成 28 年 7 月に工事を開始し、平成 29 年 3 月末に竣工いたしました。2 階のホールは、およそ 20m×14m の広さがあり、収納式の座席が 153 席、さらに椅子を並べれば 300 席に

なる作りです。1階部分は、4教室と実験室の5室ですが、小教室としては7教室に仕切って使用することができます。

新棟は、「30周年記念アグラ棟」と命名し、2階ホールは「アグラホール」といたしました。去る4月27日、つくば市長五十嵐立青様、茨城県総務部総務課私学振興室長小野瀬篤郎様、本校父母会、後援会、桐創会（同窓会）の役員の皆様にご参列いただき竣工式を催させていただきました。式典では、設計監理をしてくださった岩佐設計工房岩佐周明様（本校第6回卒業生）、施工してくださった池田建設株式会社様への感謝状を贈呈し、ご来賓の方々よりお祝いのお言葉を頂戴いたしました。設計監理をしてくださった岩佐様よりは、このアグラ棟設計に当たって、正木和広様（2回生）、龍井潤一様（構造設計、3回生）、千葉朝子様（音響設計、10回生）といった卒業生も関わってくださったという報告が加えられました。卒業生の活躍もあったことに対して、本当に心強く感じました。式の後には、アグラホール使い初めとして、生徒の個人課題研究などのプレゼンテーションが行われました。このような研究発表をはじめとして、学年集会なども含め多くの機会に活用されることとなります。

以上、30周年事業の宿題となっていました講堂（多目的小ホール）建設ですが、8年がかりでの達成となりましたことをご報告申し上げ、改めまして皆様方にお礼申し上げる次第です。間もなく40周年を迎えようとしておりますが、創立以来の建学の理念を胸に、常に挑戦する心をもち生徒にとってより良い教育を求めて邁進してまいりたいと存じます。引き続きましてご支援賜りますようお願い申し上げます。